

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針に掲げられている「地域社会との交流を深め、地域に貢献し愛される家」「心が癒され安らぎのある家」を基に、入居者が地域の中で支え合って暮らせる事を第一に考え、実践しております。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が安心して暮らせるように、毎日の申し送りや毎月のミーティングにおいて理念を確認し、その理念の実践にむけて職員が一体となって目指す方向を位置づけて日々のケアを行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	グループホームの役割について運営推進会議や地域の総会などにも出席して、「はなは」の取り組みや地域の方々に支えられて運営がなされていることなどを説明し理解していただくようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の一員として、総会で「はなは」又はグループホームの役割について説明し認知症についても何か相談したいことがあるときはいつでも応じれることをお話している。春には田植えに向けての用水路作り(普請)にも地域の労働力として職員が参加し、日常的にも近所への散歩や季節毎の神社祭り、夏祭りなどにも参加して、地域の方との交流を図っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と一緒に自己評価を行い、日々の自分達のケアのあり方の見直しを行い、気づいた部分は改善するよう努めている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動内容や取り組みについて報告し、家族や地域の方々に「はなは」の事をより知ってもらい、入居者が安心して暮らせるよう助言等を頂き、サービスに反映させている。又、運営推進会議に地域の方と市役所の方が同席することで、様々な意見交換の場となっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には毎年自己評価、外部評価結果を報告している。又、運営推進会議にも出席していただき助言をいただいたり、出席できない時は資料や報告書を提出し「はなは」の現状を理解していただくよう努めている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を利用されている方が1名、成年後見制度を利用されている方が1名おられ、又、勉強会も行っており、職員は周知している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2006年に施行された高齢者虐待防止法について事例を交えながら勉強会を行い、オーダーメイドケアの視点から個々にあったケアを実践することで入居者が安心して過ごせるよう職員同士が常に言葉を掛け合い、しない、させないを徹底して行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時、制度改正時（今年度の介護報酬改定等）について、家族の方が重要事項説明書を理解できるようわかりやすく説明し、納得していただいている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での会話や表情の変化で、その人が持っている思いや不満を感じることができるよう普段からコミュニケーションを多くとり、不満がでたときには職員で情報を共有し、改善するようにしている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会に来られる方にはその都度本人の状況を説明し、遠方におられる方には日常の様子や受診結果などを定期に報告している。金銭については毎月出納帳を作成し、確認していただいた後、サイン、又は印をいただいている。年4回の「はなは便り」を発行し、写真などで暮らしぶりなど様子を見ていただいている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはできるだけ話をして職員との信頼関係を築き、気軽に話ができるような雰囲気作りを心がげ苦情があった場合はすぐに職員全員で話し合い適切な対応ができる体制を整えている。重要事項説明書に苦情窓口を明記し、玄関の目につく場所にも掲示している。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回のミーティング時、又、入居者の事を一番理解しているのは自分達職員であるということの認識をもち、折に触れて職員と話しをする機会を多く持つようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は全員24時間連絡をとれる体制をとり、職員の急な休みや入居者の状況変化に応じて対応ができるよう体制を整えている。又、他館との協力体制もとれている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット間での交流は行事等を通じて常にあり、異動となっても現在までに特に入居者に混乱もなく、引き継ぎができています。新採用時には職員同士でフォローして、入居者に早く馴染んでいただくよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンプライアンスについては新入社時時点で十分理解できるよう時間をとり、その他、年間研修計画を作成し、できるだけOJT、OFF-JTが実施できるようにしている。内部研修も勉強内容に沿って行われ、特にSDSは日々自己啓発として全職員が行っている。	○	今年は去年よりも多くの職員が外部研修に参加し、自分自身の質の向上につながったと思われるので、来年度も継続出来るよう勤務態勢を整えていきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会を持ち、入居者の方々は楽しみ、職員はお互いに質の向上に繋がっている。グループホーム協会に加入し、様々な研修に参加することで交流ができ、又、情報をいただき職員がその情報を共有することでスキルアップすることができている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々、職員にねぎらいの言葉をかけてくださり、親睦会をしてくださったり、職員が働きやすい環境を築けるよう配慮して下さる。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はほぼ毎日訪れ、職員に気軽に声をかけたり話をしてくださる。年に1回健康診断をして健康管理を行い、やりがいのある職場作りに配慮してくださっている。資格取得に関しても積極的に支援して下さる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初に相手の言葉を傾聴し、何を希望し何に困っているのかを把握し、その後十分に時間をかけて話し合いを行い、相手の不安毎などを理解、評価し信頼関係を築き安心して利用していただけるようにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人、家族から現在の状況についてよく話を聞き、本人にとってどのようなサービスが必要か担当ケアマネや各関係機関と相談しながら適切なサービスが利用できるよう支援している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にも本人に不安のあることは何でも話てくださるよう（信頼関係を築くよう）努め、安心して過ごしていただけるよう家族にもできるだけ面会をお願いし、職員、家族、本人と一緒に笑顔でいられるよう関わりを持っている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活においてお互いに共感し助け合いながら、入居者、職員が共に欠かせないパートナーとして毎日を過ごしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力のもと、共に考えていく姿勢を大切にし、お互いの信頼関係を築き、相談などに応じている。職員もわからないことは家族から話をきいて、ケアの場面で役に立つことが多くみられる。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居にいたるまでの本人と家族の関係を理解し、行事などに積極的に呼びかけを行い楽しい時間を持ち、お互いが良好な関係が継続できるよう支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで係わってきた馴染みの人や場所などを把握し、それらとのつながりが途切れることのないよう職員が代行したり、連絡調整をしたりして、できるだけ本人の希望が叶うよう努力している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人一人が「はなは」の家族の一員と意識できるような場面を作り、個々が持っている個性を活かすことができるようお互いに支え合いながら生活している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も家族との出会いや関わりを大切にし、いつでも相談に応じる明確な姿勢をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活場面において入居者のささいな「変化」に気づき、話し合いを行い共感的理解をして常に本人の意向をくみ取れるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴に重要性を理解し、これまで馴染んできた環境などが途切れてしまわないよう本人や家族から丁寧に聞き取りをしてアセスメントツールに反映させ情報を共有して毎日のケアに取り入れている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の場面、場面でのエピソードや職員の気づきを記録、申し送りすることで、1日の過ごし方を細かい所から総合的に把握できるようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日々の生活の言動、行動に注意し、家族の要望も聞きながら本人にとって何が大切であるかに重点をおき、看護師による長谷川式スケールの結果も踏まえ計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画を作成した後でも本人の状況や家族の希望、新たなニーズがあるとき、又、定期的なモニタリング評価の結果も参考にしながら、職員全員で見直しや検討を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状況や日常の様子、言動、エピソードなど、職員がかかわったことを記録し、それらを職員は共有して記録の計画の見直しやケアの気づきに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所母体が医療機関であり、又、看護師を配置し日常的健康管理を行うことで、入居者、家族共に安心されている。医療機関で行われている夏祭りに招待されたり、医療機関に併設されている託児所の園児達とは行事などを通じて、常に交流を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方の運営推進会議への出席、「はなは」から地域の総会に出席してグループホームのはたすべき役割を理解していただけるよう話をして、地域の方々とのかかわりが深くなり、何かあったときには助けていただけるようになっている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	日常生活や本人の状況等に応じてケアマネジャーや福祉用具専門員、他機関と連絡をとり、いつでも必要なサービスを受けれる体制をとっている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には市役所介護保険担当者の方が出席されており、地域包括センターとの関わりは今年度ありませんでした。	○	必要時には相談、協働、連携をとっていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今まで「看取り」をした方なおられません、職員が「看取り」に関する支援の仕方について不安にならず冷静に対応できるよう、今後も勉強、研修を継続していききたいと思います。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退去時はただでさえ不安な気持ちでいるので、少しでも今までの生活が維持できるよう関係者や家族、ケアマネなどと情報を共有しながら、本人の不安を最小限にするよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシー、「恥ずかしい」という気持ちを「認知症だから」ではなく、「認知症であっても尊厳はある」と認識し、常に職員は個々に合わせた配慮を行っている。又、プライバシー保護に関するマニュアルを整備している。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	パーソンセンタードケアを私達の基本として、一人一人が自己決定を大事にして本人が満足して過ごせるよう努めている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々な情報のもと、本人が快適、かつその人らしい生活が送れるよう支援している。又、スケジュール通りに行うのではなく、その日の状況や天気、希望に応じて臨機応変に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が愛着のある物を大切に希望を聞きながら、本人、家族と相談し協力をしていただき、身だしなみを気にすることでその人らしさを失わず、生活意欲の向上につながるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望を聞きながら言葉で理解できない方には大きな料理の写真を作成し食べたい物を聞いたり、調理の手伝いができる方にはりんごの皮をむいてもらったり、菊の花こぼしを手伝ってもらったり、その人が出来ることを職員と一緒にやり、食事の時は声掛けや、さりげない食べこぼしや食べ残しへの対応を行っている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は煙草を吸う方が1名おられ、主治医、家族と相談し1日3回食後に職員付き添いのもと、吸われている。特におやつは楽しみの一つでもあるので、できるだけ食べたい物を楽しい雰囲気ですべていただくようにしている。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の生活の中で排泄記録表などを使って、パターンを把握し、職員同士で情報を共有し、看護師からの助言もいただきながら排泄支援への工夫を重ねている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴であるが、個々の状態、希望に合わせて入浴を一つの楽しみ、くつろぎの場としてとらえ入浴方法やタイミングなど、状況に応じて対応している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎朝の体操や軽作業による日中の活動での生活リズムを整え、安眠出来るようにしている。夜間眠れない方には会話をしたり、お茶を飲んでリラックスして休んでいただけるような工夫を行っている。		
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人一人が様々は場面で活躍できる機会を作り、生活の中で入居者自身が出来た能力を引き出し、気づかせ自信を持って生活できるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族承諾のもと、少額の金銭管理をしている方もいますが、できない方でも買い物の時などは支払い行為を見守り、介助し、一人一人の自信につながるようにしています。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望や状態に合わせて、ドライブ、買い物などに出掛けて気分転換や楽しみが持てるようにしている。	○	外出することにより不穏状況（混乱、居室がわからなくなる、場所がわからなくなる等）が出現する方もいるので、状況に応じて支援するようにしている。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎の年間行事をたてたり、個々の希望を家族と相談し了承のもと、出掛けられる機会を多く持つようにしている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者一人一人の希望に応じて電話を仲介したり、手紙の返信、代筆などの支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族面会時には笑顔での対応を心がけ、居室でゆっくりと楽しい時間を過ごせるよう配慮し、宿泊の希望にも対応できる体制を整えている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止規定に基づいて本人や他者への生命の危険が及ばない限りは個々のBPSDを把握し、その人にあったケアを行い、安心して生活できるよう職員全員で話し合い、助け合い、身体拘束をしないという意味統一を基本にケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないように入居者一人一人の行動を把握し、必要時には散歩に行き気分転換などを図っているが、そのとき、人の状況によっては家族の理解、同意を得て安全性を考慮して施錠することもある。	○	今後も地域の方々へも無断外出時等への協力を得られるよう呼びかけや努力を行っていく。個々のBPSDの原因を突き止め事前対応ができるよう取り組んで行く。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に職員が入居者が見える場所において声掛けや見守りを行い、夜間は定時の巡回をして安全確認を行っていえる。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全面を第一に考え、生活の場という空間を大切にして本人の意欲向上につながるよう工夫し、リスクマネジメントを念頭に注意の必要な物にかんしては、施錠や管理を行っている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット時は報告書を作成し、なぜそうなったのか原因を職員全員で検討し、同じことが2度とおきないように対策、工夫をして事故防止に努めている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の講習を受けたり、看護師からの講習も受け、又、緊急時対応マニュアルを作成し適切、冷静に対応できるようミーティングなどで再確認を行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、昼夜想定避難訓練を年2回行っている。運営推進会議や地域の総会に出向き協力をお願いしたり、ホームもいつでも地域の皆様に協力できるということをお話している。非常用物品も準備している。	○	今後も地域と一緒に協働、連携できるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に一人一人の生活状況や行動障害について説明し、起こりえるリスクについては説明している。特に身体的、精神的な変化があるときはリスクも大きくなることも伝えている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の様子の情報を職員で共有し、認知症で自分で訴えることができない方もいるということを理解し、日常の様子に変化があった場合は病院へ連絡し必要に応じて受診、又は看護師と相談するなど、速やかな対応ができるよう体制を整えている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病状、病名を把握し、処方内容と薬の内容を確認して毎食毎にセットし間違いのないよう確実に服用できるようにしている。薬剤についてわからないことや新しい処方がなされた時などは薬局に問い合わせをしたり、看護師に聞いたりして十分に理解するようにしている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄、水分量確認表を利用し、入居者の排泄状況がわかるようにチェックし、状態に応じて看護師から助言をもらったり、水分補給、軽体操、乳製品をとるなど、体調管理（便秘予防）を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを個々の状態に応じて介助し、清潔の保持に努め、必要な場合は家族と相談して受診などを行い、いつまでも経口摂取が維持できるよう支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の状態に合わせ、粥食やきざみ食を提供したり、母体である医療機関の栄養士からの助言も受け献立の作成を行い毎日の食事、水分摂取量を記録し、職員全員が把握できるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	健康管理、感染予防マニュアルを作成し、除菌、消毒などマニュアルにそって予防している。流行している病気（インフルエンザ等）は講習会に参加したり、情報収集を行い予防や対応策について職員で勉強し、周知するようにしている。季節型のインフルエンザ予防接種は入居者、職員全員が接種している。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	研修等にも参加し、手洗い、うがいを徹底し、職員は食中毒への理解を高め、調理用品、布巾の消毒、除菌は毎日行い、衛生管理し、食材も新鮮で季節感のある物を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	生活の場として玄関に季節の花や飾り物をおき、快適で入りやすい空間になるよう工夫し、誰でも気軽に出入りできるよう配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状況に合わせてリスク面も考えて環境を整え、季節に合わせた花や入居者の作品などを飾り、居心地のよく安心して過ごせる空間作りを行っている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーがおいてあり、気の合う入居者同士がいつでも楽しく会話され、又、外の中庭には東屋があり、夏にはイスに座って他館の入居者と話しをしたり、バーベキューを行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族の方に相談、協力していただき、本人の馴 染みの物や大切な物を居室に持ち込み、本人に とって安らげ、安心して生活できる居室作りを 行っている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室には湿温度計があり、日々確認し個々の状 況に合わせ温度調整を行っている。毎朝の清掃時 には新鮮な空気を取り込み、昼夜とも空気清浄機 を使用して換気を行い入居者が快適に過 せるようにしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	入居者の移動や歩行に支障がないよう手すりが設 置されており、個々の身体機能の低下や状況に合 わせて福祉用具を活用するなど工夫を重ね、生活 環境の改善に努めている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	入居者一人一人の「できる事」を見極め環境を整 えたり、声掛けの工夫などを行い、安心した生活 ができるようにその都度取り組んでいる。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	中庭を利用し散歩やお茶会、畑での農作業を行 うなど、入居者一人一人が楽しみをもち、自分達 が作った作品をホールなどに飾る事により、自信 回復にもつながっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「はなは」は自然に恵まれ四季折々の景色を眺めながら、入居者の皆様はゆっくりとした日々を過ごされています。地域の方との交流も増え、地域の方（地元にある）のブルーベリー園や栗山の利用に声を掛けていただき遊びに行ったりしています。又、医療機関の系列であり、いつでも看護師、主治医と連携をとりながら健康管理を行っており、精神的、身体的にも安心した生活を送る事ができています。